

広報 おだわら

ODAWARA PUBLIC INFORMATION

平成7年 12月1日
December 1, 1995 No.664

発行：小田原市役所
〒250小田原市萩窪300番地
毎月1・15日発行
編集：広報広聴課(☎33-1261)



変わり種自転車お目見え ワンちゃんに乗ったよ サイクルフェスティバル

11月11日、酒匂川左岸サイクリング場で、変わり種自転車で遊ぶ「サイクルフエスティバル」が開かれました。会場に集まった市内の小学校1～3年生200人は、真新しいパンダサイクル、恐竜サイクル、サイドカーサイクルや3人乗り、4人乗りの自転車に乗り、秋晴れのもと、広々としたサイクリング場を元気に走り回っていました。この日用意された変わり種自転車19台は、日本自転車普及協会からサイクリング場を設置した小田原市公益事業協会へ贈られたもので、今までの自転車同様、サイクリング場で貸し出します。貸し出し時間は、月曜日から金曜日と第1・第3土曜日が午後1時から4時まで、休日と第2・第4土曜日が午前10時から午後4時までです。酒匂川左岸サイクリング場自転車貸出所 ☎(07)67443

主な内容

ボイ捨て禁止マーク決まる……………2
特集 身近な地域行政所生活ホーム4
クリスマス、お正月準備……………8

防災対策・産業振興をよろしく

西湘地域首長懇談会

県知事・副知事と小田原市・足柄下郡3町の首長が一堂に会して「西湘地域首長懇談会」が11月17日に市役所で開かれました。冒頭、岡崎知事から県の総合計画策定と地域防災計画見直しの話があり、これを受けて、県と市・町がお互いに緊密な連絡を取り合うことを確認しました。この席で小澤市長は、地震防災対策、産業振興、土地利用規制の緩和、道路網の整備など、小田原市の現状と県への要望を伝えました。



奥中央：岡崎副知事 右：山下副知事 左：飯田副知事
手前左：小澤市長

人權週間

○小林 糸み子(城山 2 — 22 — 18)
 ☎ 5 6 7 3)
 ○和田 武(小八幡 3 — 18 — 7)
 ☎ 3 4 1 2)
 ○雨宮 秀雄(板橋 7 6 3 — 36)
 ☎ 1 5 5 1)

○神野江(永塚302) 422
○鈴木洋子(早川766) 241
181
○柳川宣枝(本町3) 312
220538
○加藤義七(城山3) 1215
2293309
○古澤昭二(蓮正寺439) 266
29339
○小澤卓二(中村原369) 43

0183)
○小川迪雄(城山1—23—2)
③1443)
○穂谷野賢治(南鴨宮1—5—37)
④7697)
○竹井貞雄(久野369—348570)
○銀持安男(曾比2375—360193)
○問い合わせ 市民相談室 ③31383

酒匂川の浄化にご協力を
安心して飲める
小田原の水



水の中の汚れの成分と水道水の消毒剤である塩素とが反応してトリハロメタンが発生しやすい状態になります。水道水は、水道法によって水質基準が定められており、常に厳しい監視が行われています。昨年は、水道水

の1部がトリハロメタン濃度50ppb以下に抑えられ、残りの85%はトリハロメタン濃度50ppb以上である。このうちトリハロメタン濃度50ppb以上の水は、トリハロメタン濃度50ppb以下の水と比べて、トリハロメタン濃度50ppb以下の水の10%を超える数値になりまし

水道局では、これからも浄水施設の研究と改善を行い、安全でおいしい水をお届けしていきます。市民の皆さんも私たちの水道の源である酒匂川の浄化にご協力ください。

有機物を含んだ水に塩素を混ぜるなどにより生成させ、発ガンを抑えていると言われていますが、3～5分間沸かすとほとんどなくなります。

●問い合わせ 水道局浄水課
☎11245

戸籍手数料が
変わります

平成8年1月1日から

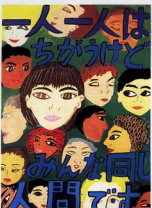


	改定前	改定後
戸籍謄本・抄本	400円	450円
除籍謄本・抄本	700円	750円
戸籍記載事項証明	300円	350円
除籍記載事項証明	400円	450円
受理証明書	300円	350円
婚姻届等の受理証明書 (上質紙)	1300円	1400円
届書の閲覧(利害関係 人で特別の理由がある 場合に限る)	300円	350円

国の政令改正で、戸籍簿（本、抄本）などの交付手数料が、1月1日から表のとおり変わります。

市民生活ガイドブック33ページ
の証明手数料のうち
戸籍関係（戸籍の謄本・抄本、除籍・改製原戸籍の謄本・抄本、戸籍記載事項証明、除籍記載事項証明、戸籍の届出の受理証明）が変更されますので、ご注意ください。

人権ポスター
金賞に角谷晴子さん



金賞受賞の角谷さん（国府津小4年）の作品

●金賞 角巻晴子さん
作品が2点卓着されました。
入賞者は次のとおりです。

○銅賞 鈴木真結さん
新玉小学校

○銅賞 杉山椿さん
（新玉小学校）

○銅賞 角巻晴子さん
（富水小学校）
入賞作品は約70点、12日
（8月6日～8日）に展
示の広報展示ロビーで市役所
市民相談室

●問い合わせ
1333

●観賞 須山小次郎さん
（豊後小学校4年）

野菜の即売会

なぞ



新鮮で安全な野菜をどう
消費者の会では、地元の生産者をはじめ各方面の協力で

市駅伝競走大会

7区間 3・8キロの単

大塚までの地区代表選手に、皆さんが温かい応援のご協力を、
●日時 平成8年1月14日
(日)午前9時市役所スタート
●コースと通過予定時刻
①第1区(5km) 市役所→
《国安通り》→《三の丸小前
左折》→《お堀端通り》→ナ

小田原市駅伝走



野菜の即光会を開きます。
新鮮で安全な野菜と、毎回好評の手作りみそ・漬物などを用意して、皆さんのご来場をお待ちしています。

●日時 12月18日(月)午前10時から売り切れ次第終了

●場所 市民会館ロビー

●問い合わせ 消費者の会事務局(市民生活課内) ☎31396

プロ意識は人一倍
地域作業所アークスカじか多くの人の集う場所に
地域作業所わかば会うれしい近所付き合ひ
地域作業所ゆうハンデ
地域社会

身近な地域作業所・生活ホー

この地に開所してから、まだ2年ほど、近所の方が花を届けたり、地域の情報を教えたりと、何気ない交流が、とてもうれしく感じられる。このところ、作業所のスペースが狭く、せっかくボランティアの申し出があっても、断らなければならないのが残念だ。

中心街で明るく生活
地域作業所かもめの家

まちの中心地で明るく生活しているところ、国道沿いに開所しました。近所の商店の人たちも、明るくあいさつに交わります。隣の豆腐屋さんからも、所員に傘を貸してもらったと聞いたり、初め他人事話、このときでなかった所員が、いつの間にか地域社会の一員になっているのです。あきらんで、明るい人の輪が広がるんです。



「かもめの家」からの依頼を受けて、十字地のボランティアが作業所に伺うように



十字地区ボランティア協会会長
太田里さん

「かもめの家」からの依頼を受けて、十字地のボランティアが作業所に伺うように



なりました。この仕事の生活は、いたくまで、作業所があることは知っていたのですが、どうして関わりを持てばいいのかを考えていたんです。今では、毎月10日と20日、3人ずつが作業に出ています。障害者の接点となるように作るか、温かいます。づくりのポイントだと思いま



地区の夏まつりに参加

地域に自然体で生きる生活ホーム永塚寮
このような施設が地域に根をおろすということは、新しいまちに引越したときと同じ、と職員の方たちは話してきました。自立に向けて地域へ巣出したのですから、周囲に特別な扱いを求めないというのが大切なこと。自然な近所付き合いの中で、お互いのことを知り、良い関係を築いていきたい。そんな雰囲気を感じられました。

第43回市民劇場
南こうせつコンサート
この公演は「田原ふるさと文化会」が主催する。子どもを呼びつけます。
日時 2月1日(金)午後6時30分開演
会場 市民会館大ホール
入場料 5000円(全席指定)
販売所 市民会館事務室
志摩パビリオンチケットショップ、おちかや、インフォメーション、好野屋(一人1回1枚)、市民会館
問い合わせ 市民会館 7146

小田原城天守閣から
初日の出を見よう

商工会議所青年部は、元旦の恒例行事「お城から初日の出を見る会」を開きます。
日時 1月1日(月)午前6時30分～8時30分(要申込)
会場 小田原城天守閣
定員 100人
申し込み 往復はがき1枚、住所氏名、年齢、電話番号を書いた用紙を1月10日(水)まで、小田原市役所市民生活課に提出してください。小学生以下は保護者同伴で、定員を超えた場合は抽選



地域センターの第1号施設
「仮称 川東東地域センター」は、川東東地区全体
を酒川以東の中心地として
、また、だれもが施設に利
用できる施設として、平成8
年1月の開館開始まで、準備
を進めています。

開館後、これまでとは異
なった、新しい市民施設とし
てできる、開放的な運営を
し、原則として飲食自由で
、できる限り自由に考えて
います。

このように、地域の皆さん
が気軽に利用でき、文化活動
、生涯学習活動、地域交
流の場、生活活動の場とし
てより多くの人が集い、ふ
れあうことのできる施設運営
をめざします。

ご利用、申込みにつきましては、広報あさひが毎月1
日号を、ご覧ください。

☎ 03-389-
地域センター課

市民の声の **直通便**

こんにちは
市長さん

タウンセンターの利用を
規則で縛らないで
川東タウンセンターが完成
するのを待たずに、市民に
規則規則縛らずに、市民に
開放的な場所にして下さい
お答え
おは、生涯学習活動など幅
広い地域活動を提供するため
の中心の施設として、また、
行政窓口機能を併せ持つ複
合施設として、地域センター
市内の6つの地域に計画
を進めています。



**お飾り教室と
餅つき大会**
日時 12月23日(祝)午後1
時～4時

**もうすぐ
クリスマス**

お正月

子供たちが楽しみにして
いるクリスマス。お正月。
今年は手作りのケーキやし
め飾りに挑戦してみたい出
に残りますよ。

- 対象 小学4年生以上
- 材料費 1,000円
- 指導 横山利雄さんほか
- 申し込み 12月8日(祝)から
直接または電話で専任記念
館 ☎23381へ
- 自分で作った、しめ飾りで
お正月を迎えてみませんか
日時 12月24日(日)午前9
時30分～午後3時30分
- 会場 郷土文化館会議室
- 対象 小学校4年生以上
- 定員 申し込み先着順30

しめ飾りを作ろう



- 会場 専任記念館
- 定員 申し込み先着順40
- 対象 小学4年生以上
- 材料費 1,000円
- 指導 徳谷野津さん
- 持物 筆、絵の具、はさみ、
昼食
- 申し込み 12月16日(出)から
直接または電話で郷土文化
館 ☎23377

●お菓子でつくる
童話の国の
クリスマス
お菓子や野菜でメルルの
世界を作りあげよう！
日時 12月17日(日)午前9
時～午後12時30分
会場 小松記念館
●対象 小学1～5年生
●定員 申し込み先着順20
人
●材料費 200円
●持物 エプロン、三角巾、
手ふき
●講師 児童文化専門委員
さん、小嶋慎子さん、酒井愛子
さん



- 申し込み 12月3日(日)午前
9時から、直接または電話
で、市立図書館 ☎2105
7
- 対象 16歳以上の方
- 定員 20人
- 講師 高木雅子さん
- 材料費 1,000円(申し
込みに含まれ、原則として
お返ししません)
- 申し込み 12月9日(土)午後
1時から直接、または往復
電話を書き、氏名、年齢、
電話番号を書いて、専任記
念館 ☎2550 小田原市栢
山2-0-6の1 ☎23381 受
付時点で定員を越えたら、
はがきを含め、いただき
に抽選します。

クリスマス料理教室

なかよし家族と

●申し込み 12月3日(日)午前
9時から、直接または電話
で、市立図書館 ☎2105
7

●対象 16歳以上の方
●定員 20人
●講師 高木雅子さん
●材料費 1,000円(申し
込みに含まれ、原則として
お返ししません)

**松永記念館
常設展**

郷土文化館分館と本記念館展
示では、後期分館と小松次
郎顕彰展、小田原町大震災人
ま別館(欠)を開いています。
また別館に河内とレクシオン
展示室も一部展示ををしし
ています。

●開館日 3月30日(日)までの毎
週(祝祭日・年末を除く)
(祝祭日・年末を除く)
●入館料 無料
●問い合わせ 郷土文化館 ☎
13377



**『おだわら・歴史と文化』
第9号発刊**

今回は、北條早良の小田原入
城500年と戦後50年を記念し
た特集記事をはじめ、専門
家による対談や研究報告のほか
市民の戦争体験などを収録。
おだわら・歴史と文化編集協
会売店または市内各書店で、
●価格 1,100円(税込み)
●問い合わせ 市史編さん ☎
28510



小田原文学館



●開館時間 午前9時30分
～午後4時(入館は3時
30分まで)
●休館日 月曜日、祝日の
翌日、年末年始 ☎958
871、734
●文学館は、過去に多くの
著名な文学者が住んだゆか
り、地、西子小路、南町
にスベイン風様式で建てら
れた元宮内大臣田中元章の
別荘を、建物の保存を兼ね
て活用しています。



んだらかりの文学者の原稿、
書籍、遺品などの関連資料
を展示しています。
12月1日には、三好達彦
坂口香を加え、
展示替え
展示替え



**小田原出身の
文学者**
川崎長太郎 1901～1985
『黒い雨』『赤い雨』
『黒い雨をわにぬがれば、まっすぐ
の道へ出る。』など、おだわら・歴史と文化
で連載されている『黒い雨』は、戦時中
の日本を背景とした、作者の自伝的な
小説である。『黒い雨』は、戦時中
の日本を背景とした、作者の自伝的な
小説である。

**小田原ゆかりの
文学者**
長谷川知太郎 1875～1969
『緑の詩』『日本の性格』
川田晴久 1892～1966
『山田歌』『西行』



尾崎一雄 1899～1983
『おだわら・歴史と文化』の2月号
『小田原の音楽』『高野の音楽』
『おだわら・歴史と文化』の2月号
『小田原の音楽』『高野の音楽』
『おだわら・歴史と文化』の2月号
『小田原の音楽』『高野の音楽』



加藤一夫 1897～1951
『村に嫁ぐ』『日本の性格』
木村雅夫 1895～1977
『風光・光の道』『1915の道』



三好達彦 1900～1964
『黒い雨』『赤い雨』
『黒い雨をわにぬがれば、まっすぐ
の道へ出る。』など、おだわら・歴史と文化
で連載されている『黒い雨』は、戦時中
の日本を背景とした、作者の自伝的な
小説である。『黒い雨』は、戦時中
の日本を背景とした、作者の自伝的な
小説である。

坂口香を加え、
展示替え
展示替え